

製品・サービス動向-国内

■リコー：「RICOH Collaboration Board Add-on Service for Microsoft 365」を提供開始

(1月16日)

株式会社リコー（<https://www.ricoh.co.jp/>）（東京都大田区）は、ハイブリットな働き方に最適なコラボレーションボード「RICOH Collaboration Board W5500/W6500/W7500」（<https://www.ricoh.co.jp/products/maker/ricoh/collaboration-board-w-series>）と、「Microsoft 365」との連携を実現するアドオンサービス「RICOH Collaboration Board Add-on Service for Microsoft 365」を、1月23日より提供開始する。

「RICOH Collaboration Board Add-on Service for Microsoft 365」利用プラン

メニュー名	価格(消費税別)
RICOH Collaboration Board Add-on Service for Microsoft 365 月額契約	4,500円
RICOH Collaboration Board Add-on Service for Microsoft 365 年額契約	54,000円

* RICOH クラウドアプリケーション スタートバックのお申込みが別途必要となります。Microsoft 365@の利用契約は含まれておりません。

安心3年モデル仕様と機能

品名	RICOH Collaboration Board W5500 安心3年モデル	RICOH Collaboration Board W6500 安心3年モデル	RICOH Collaboration Board W7500 安心3年モデル
画面サイズ	55インチ	65インチ	75インチ
本体保証期間	3年間		
発売日	2025年1月23日		
標準価格 (消費税別)	オープン価格		

利用プラン、安心3年モデル使用と機能（リコー）

RICOH Collaboration Board 標準搭載の NFC リーダーに社員証など IC カードをタッチするだけで、カードに紐づいた Microsoft 365 のアカウントに簡単に連携ができる。また、Outlook Scheduler と連携し、スケ

ジュラーに登録された「Microsoft Teams」や「Zoom」会議に簡単に参加が可能となっている。さらに、「OneDrive」「SharePoint」「Box」と連携し、RICOH Collaboration Board から操作して各ストレージに保存している資料の表示ができる。

また一方で、同日、RICOH Collaboration Board 本体のファームウェアアップデートによる IC カード認証対応や複合機連携など一部機能追加（無償）と、RICOH Collaboration Board W5500/W6500/W7500 各機種 of 3 年間無償保証のついた「安心3年モデル」の発売も開始する。

■ブイキューブ：4～6 人用の大型テレキューブ、サブスクリプションプランの提供を開始

(1月28日)

株式会社ブイキューブ（<https://jp.vcube.com/>）（東京都港区）は、昨年11月に販売を開始した、4～6人向けの多人数用テレキューブをサブスクリプションプランで提供開始する。



<多人数用テレキューブレイアウトの例>

多人数用テレキューブレイアウト例（ブイキューブ）

昨今、オフィスへの出社が増加する中で、対面での会議や打ち合わせの増加、またチームで集まりコミュニケーションをとるための空間として、会議室や個室

の必要性が高まっている。一方で、会議室や個室の設置には、壁・床・天井への設備工事など大掛かりな施工が必要となり、費用や時間がかかるという課題がある。

4~6人用の多人数向け大型テレキューブは、ソファやキャスター付きチェアを活用したミーティング向けレイアウトや、任意の家具を使用した会議やプレゼンテーション向けレイアウト、さらにマネージャー室や個室、休憩スペースなどさまざまな用途に対応可能となっている。加えて、内装の色やその他のオプションも品ぞろえを充実させており、設置空間や用途、内装家具に合わせたコーディネートが可能となっている。

これらの多様な用途に対応する快適な個室環境を、初期費用を抑えて利用できるよう、今回サブスクリプションを用意した。

従来の4人までのテレキューブは内装がソファタイプで固定されていたが、多人数用テレキューブでは広い空間を活かし、お客様自身でレイアウトをコーディネートできるよう、筐体みのプランを用意した。

筐体みのプランは月額124,800円(税別)で利用できる。ただ、内装設備のオプションにより料金が異なるため、詳細については同社へ問い合わせ。

テレキューブは、同社が2017年に「Web会議の場所がない」という課題を解決するために提供を開始した防音個室ブース。ラインナップは、個人で作業やWeb会議を行えるソロ(1人用)、1on1など2人でのミーティングに適したグループ1型、4人までの打ち合わせが可能なグループ2型、そして6人までが利用でき、レイアウトの自由度が高い多人数用(4~6人)を取りそろえる。

2024年には設置台数30,000台を突破し、防音個室ブース市場における調査では、2024年度までの3年連続でシェアNo.1を達成している。

■ブイキューブ：セールスシーンのコミュニケーションを科学する ManeAI を提供開始、ハイパーフォーマーをAIで分析、商談のフィードバックを自動化

(1月29日)

株式会社ブイキューブ(<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区)は、セールスシーンのコミュニケーションをAIを活用して効率的に支援する新サービス「ManeAI(マネアイ)」を1月29日からリリースする。

ManeAI(<https://jp.vcube.com/maneai>)は商談で利用されるZoomなどのコミュニケーションツールから得られるデータを元に、AIによる学習・解析結果を即時提供するサービス。導入により、営業マネジメントの効率化、成果創出への貢献が期待できる。

昨今、人口減少と人手不足を背景に、ビジネスシーンのあらゆる職種でAIをはじめとするテクノロジーの活用が検討され、労働生産性の向上やより大きな成果をだすことへの貢献が期待されている。今回ManeAIが対象とする営業領域もそのうちのひとつ。

日本の営業マネージャーの約9割はプレイングマネージャーで、自身の営業活動に加えて組織づくりから管理まで、業務内容は多岐にわたる。そのため、特に重要な業務の一つである部下の育成

にかけられる時間が限定的になることから、大きな課題となっているという。ManeAIは、課題である営業マネジメントの効率化、成果貢献を目的に開発された。

ManeAIは営業で高い成果を出す、いわゆるハイパーフォーマーの商談をAIで分析し、営業組織の型化、ならびに底上げに向けてのマネジメントを支援する。解析された商談から成功要因を抽出し、個社ごとにカスタマイズした、事前に学習済みのセールスシナリオに基づくフィードバックの自動化までを、AIが推進する。

Zoomなど外部の商談を録音・録画できるサービスによって得られたデータを起点に、ManeAIは個社の商材や営業スタイルに合わせた商談の内容分析を行い、改善点やセールストークの提示をフィードバックする。

ManeAIは1アカウントから導入が可能で、ライセンスごとの月額課金となる。導入後、オンボーディングの2カ月間で、個社ごとにカスタマイズしたManeAIを作成、フィードバック運用の支援を行う。

■シュア・ジャパン：「Microsoft Teams」 会議用「Shure IntelliMix Room Kit」を発表、小規模から大規模までの会議室に簡単に導入

(PRTIMES：1月30日)

シュア・ジャパン株式会社 (<https://www.shure.com/ja-JP>) (東京都港区)は、新製品「IntelliMix Room Kit」 (<https://www.shure.com/ja-JP/products/bundles/intellimix-room-kits>) を発表した。

IntelliMix Room Kit は、Windows 版「Microsoft Teams Rooms」向けで、小規模から大規模(最大 10m x 5.5m)までの会議室に簡単に導入できるように設計されている。会議室規模に合わせて4製品を提供する。

IntelliMix Room Kit 30 : 小-中規模室向 (最大6 x 5.5 m)

- ・ 8チャンネルのIntelliMix Room DSPを搭載したミニPC
- ・ IntelliMix タッチパネル
- ・ MXA902 シーリングアレイスピーカーホン
- ・ Huddly IQ カメラ



IntelliMix Room Kit 50 : 中-大規模室向 (最大10 x 5 m)

- ・ 8チャンネルのIntelliMix Room DSPを搭載したミニPC
- ・ IntelliMix タッチパネル
- ・ MXA902 シーリングアレイスピーカーホン
- ・ Huddly L1 カメラ



IntelliMix Room Kit 70 : 大規模室向 (最大10 x 5 m)

- ・ 8チャンネルのIntelliMix Room DSPを搭載したミニPC
- ・ IntelliMix タッチパネル
- ・ MXA902 シーリングアレイスピーカーホン×2
- ・ Huddly L1 カメラ



IntelliMix Room Kit 80 : 大規模室向 マルチカメラ (最大10 x 5.5 m)

- ・ 8チャンネルのIntelliMix Room DSPを搭載したミニPC
- ・ IntelliMix タッチパネル
- ・ MXA902 シーリングアレイスピーカーホン×2
- ・ Huddly Crew



Shure IntelliMix Room Kit(シュア・ジャパン)

本製品は、卓越した音声/映像性能、驚くほど容易なセットアップ、強固なセキュリティとクラウド管理機能を備え、現代の会議体験を革新する。

(1) 優れた音声と映像性能：クリアな音声品質は、会議参加者と AI ツールの精度において極めて重要な要素という。今日のワークプレイスでは、「Microsoft 365 Copilot」をはじめとするさまざまな AI ツールによって文字起こしや要約の作成、重要なポイントやアクションアイテムの把握、そして会議室内の発言者の特定と識別が行われているが、その精度は入力音声の明瞭度に依存する。IntelliMix Room Kit は、1世紀にもわたり培われてきた Shure の音響技術を結集し、Teams Rooms 向けに最高水準の音質を実現した。全ての発言をクリアに収録し、正確な文字起こしを可能にする優れた音声性能を提供する。

(2) 自動設定機能によるシンプルなセットアップ：自動設定機能により、オーディオ/ビデオデバイス、タッチパネル、そして Windows 搭載のミニ PC は、自動で設定を完了させることができる。機器を接続して電源を投入し、Teams Rooms アカウントでログインするか、「Windows Autopilot」と「Autologin for Teams Rooms」を使用することで、すぐに会議を始められる。

また、Teams Rooms ミニ PC にプリインストールされた IntelliMix Room ソフトウェアによって、「MXA シーリングアレイスピーカーホン」との接続も自動で行われるようになっている。このソフトウェアは高性能なオーディオプロセッサ機能が搭載されており、不要なノイズを除去して必要な声を強調することでクリアな音声と正確な文字起こしを実現する。また、AI によって強化された音声処理技術により、エコー、ノイズ、残響を徹底的に除去し、比類なき高音質な会議

音声を実現するとしている。

さらに、各キットに同梱している AI を搭載した Huddly ビデオカメラは、「Huddly Director」と「Group Framing」機能により、参加者を自動的にフレーミングし、臨場感あふれる会議映像を実現するとしている。

(3) スケーラブルなソリューションを簡単に実現：IntelliMix Room Kit は、Windows ベースのパッケージ型 Teams Rooms ソリューションとなっており、システムの選定、導入、管理を簡単に行うことができる。キットには必要な全てのコンポーネントが含まれており、包括的なソリューションとして、IT 管理者や AV インテグレータの業務をサポートする。

(4) セキュリティとクラウド管理：Teams 通話やコラボレーションに対して Microsoft が提供する堅牢なセキュリティ機能に加え、IntelliMix Room Kit は「Teams Admin Center」「Teams Rooms Pro 管理ポータル」「Shure Cloud」さらにはユーザー独自の管理プラットフォームなどとの連携により、IT 管理者は場所を問わずシステムのリモート監視・管理が可能となっている。

また、お客様の投資を保護し、長期的な安心を約束するため、同社では標準の限定保証に加えて3年間の延長保証をオプションで用意。最長5年間の保証期間を通じて製品を確実にサポートする。

本製品は、タッチパネル、シーリングアレイスピーカーホン、カメラをセットとした、「IntelliMix Room Kit 30」、「IntelliMix Room Kit 50」「IntelliMix Room Kit 70」、「IntelliMix Room Kit 80」と4種類のルームキットをラインナップしている。なお、4製品ともそれぞれ異なる Huddly カメラがセットされており、また、後者2製品については、シーリングアレイスピーカーホンが2台構成となる。

■ Zoom Communications 社：Zoom Contact Center と Zoom Workplace の新機能と機能強化を発表

(PRTIMES:1月28日)

Zoom Communications 社 (<https://www.zoom.com/ja/>) (米国・カリフォルニア州) は、ユーザーの支援と生産性の向上を目的とした、「Zoom Contact Center」と「Zoom Workplace」の新機能と機能強化を発表した(米国時間：2025年1月26日発表、日本法人 ZVC Japan 株式会社による抄訳)。

コンタクトセンターのエージェントは、企業に優れた体験を提供する上で、極めて重要な役割を担っている。しかし、エージェントには日々のプロセスを簡素化する適切なツールが必要。

(1) スマートノートの設定：アカウントオーナーや管理者は、生成された AI スマートノートをカスタマイズして、顧客対応後のプロセスを簡素化できるようになる。文字数の制限やフォーマット、トーン、センチメント、エージェント名、フォローアップタスクなどカスタマイズが可能となっている。

(2) ダイナミックエージェントガイド：AI 駆動型のリアルタイムに適応するシナリオベースのスクリプトで、エージェントがリアルタイムの顧客との対話に基づいてワークフローを柔軟に調整できるようにする。

(3) 回答の提案：AI エキスパートアシストにより、AI がリアルタイムで、顧客に対する応答または次のアクションを提案し、途切れることのないシームレスな顧客対応を実現する。

新機能は、すでに日本語での利用が可能で、顧客の問題を効率的に解決する AI ファーストの機能をエージェントに提供する。

一方、Zoom Workplace は、Zoom の AI ファーストなワークプラットフォームであり、ワークフローを合理化し、生産性を向上させることを目的に設計された強力なツールを備えている。あらゆる規模のチームがより少ない時間でより多くのことを達成できるよう支

援する。

(1) 「Zoom Teams Chat」の新しいサイドバー：新しいサイドバーデザインの変更により、ユーザーはチャットサイドバーを簡単に操作し、カスタマイズできるようになった。タブの順序変更や固定、各タブの通知をカスタマイズして、チャットインターフェイスを自分の好みに合わせて調整できる。加えて、高度なソートやフィルタリングオプションなどもある。

(2) Zoom Team Chat のコードブロックとインラインコード：ユーザーは Team Chat にコードブロックとインラインコードを追加できるようになった。インラインコードを使用すると、ユーザーはテキスト内のスニペットをハイライト表示し、他の共有メッセージと混ざらないように視覚的に区別することができる。

(3) 「Zoom Phone Push to Talk」：現場で働くチームは、Zoom Phone の Push to Talk 機能により、即時の音声通信を利用できるようになった。チームはモバイルアプリをタップして話すだけで、特定のグループのメンバーと素早く簡単にコミュニケーションをとることができる。

(4) 「Zoom Revenue Accelerator for Google Meet」：Zoom Revenue Accelerator を使用する営業チームは、「Google Meet」で主催された外部との会議から自動的に会議メモを取得し、次のステップを記録し、会話に関するインサイトを得ることができるようになった。

(5) 字幕と翻訳言語の向上：「Zoom Meetings」と「AI Companion」の要約で、会議後も含めた参加者のエンゲージメントの向上に役立つ。

(6) AI Companion の不適切な表現フィルター：ミーティングのホストは、ミーティング中に不適切な表現を排除するフィルターを有効にして、ミーティングのサマリーやキャプションから事前に選択した特定の語句を削除できるようになった。

(7) 「Zoom Rooms」向けカスタム AV（オープンベータ版）：Zoom Rooms の Windows および macOS 向けに強化されたカスタマイズ可能な AV プロトコルを使用して、ギャラリーのサイズ、オーバーレイ、コン

テンツ表示などのカスタマイズ出力を含む、柔軟で信頼性の高い会議スペースを構築する。Zoom Rooms SDK、API、Zoom Rooms カスタム AV コントローラーを通じて、拡張された制御オプションを活用できる。

同社によると、今回の発表により、ユーザーがこれまで以上に簡単に Zoom のプラットフォームを最大限に活用できるようにしたとしている。

■ ビジネス動向-国内

■ Engineerforce：オンライン会議の効率化を推進する tldv 社と販売代理店契約締結

(PRTIMES:1月8日)

株式会社 Engineerforce (<https://engineerforce.io/>) (東京都渋谷区) は、tldv 社 (<https://tldv.io/ja/>) (ドイツ) との販売代理店契約締結を行ったと発表。

tldv 社は、Zoom や Google Meet などのオンライン会議プラットフォームと連携し、会議内容を簡潔かつ効率的に管理するための高度なツール。

特長としては、以下の通り。

(1) 会議全体を高品質で録画し、AI が重要なポイントを自動で要約する。時間を節約し、必要な情報だけにアクセスすることができる。

(2) 録画や要約をチームメンバーと簡単に共有することができる。日参加者でも会議の内容を把握することができる。

(3) Google カレンダーのほか、Slack、Salesforce、Notion なども連携可能で、ミーティングが終わり次第 Slack 通知や Salesforce、Notion に情報を溜めることができる。

以上の主な特長のほか、議論の重要な瞬間にタイムスタンプを付与したり、音声を自動で文字起こしし、キーワード検索により特定の情報を即座に取得可能、複数言語での文字起こしと翻訳に対応するなどがある。

本契約を通じて、当社は tldv を活用した新しい働き方を提案し、日本のビジネス環境における効率化を推進していく。加えて、ユーザーの声を tldv 社にフィードバックすることで、さらなる機能強化や日本市場向

けの最適化を図る。

Engineerforce は、Sier を DX するというミッションを掲げ、ソフトウェア受託開発や業務改善、新規事業コンサルティング、自社プロダクトとして見積もりから経営改善ができる「Engineerforce」の開発を行っている。

■RSUPPORT：グローバル R&D センターが情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO/IEC 27001:2022」認証取得

(PRTIMES:1月21日)

RSUPPORT 株式会社 (<https://www.rsupport.com/ja-jp/>) (東京都港区) は、グローバル R&D センターの情報セキュリティ管理システム (ISMS) に関する国際標準の規格「ISO/IEC 27001:2022」認証取得を発表。



RSUPPORT グローバル R&D センター (RSUPPORT)

ISO/IEC 27001:2022 とは、国際標準化機構 (ISO) と国際電気標準会議 (IEC) が共同で策定した情報セキュリティ管理システムの国際基準で、情報セキュリティ分野でもっとも権威のある国際認証。RSUPPORT のグローバル R&D センターはオンプレミス製品に関して 123 項目にわたる厳格な審査を経て認証を取得したという。

RSUPPORT グローバル R&D センターは、RSUPPORT 製品の開発および品質管理を担当し、グローバル 24 か国にわたる製造、金融、ICT、公共、教育分野の 50,000 社以上に、遠隔制御「RemoteView」、

遠隔サポート「RemoteCall」、オンライン営業「RemoteVS」などのソリューションを提供している。2025 年は AI 議事録「AIrepto」やメタバースコミュニケーションツールの開発をさらに進める予定という。

■DTEN 社：船井総合研究所と協業し、中堅中小企業の DX と生産性向上を支援

(PRTIMES:1月16日)

DTEN 社 (<https://www.dten.com/ja>) (米国・カリフォルニア州) は、株式会社船井総合研究所 (<https://www.funaisoken.co.jp/>) (大阪府大阪市) と協業し、日本国内の中堅・中小企業に向けて、「Zoom Rooms」対応 AI 搭載ビデオ会議ソリューションの普及促進と DX 支援を推進する。



DTEN 社と船井総研 (DTEN)

船井総合研究所と DTEN および代理店の伯東株式会社 (<https://hakuto-dten.jp/>) (東京都新宿区) は、全国の中堅・中小企業に向けて Zoom Rooms 対応 DTEN 製 AI 搭載ビデオ会議ソリューションの販売推進と設置・導入を共同で展開し、企業の DX 化を加速させ、生産性向上と業務効率化を支援する。

- 船井総合研究所は、2024年4月には東京拠点を「東京ミッドタウン八重洲セントラルタワー」35階に移転。
- 新本社への移転に伴いすべての会議室にDTEN (Zoom Rooms) を導入、ハイブリッドワーク環境を整備。



DTEN 製品を導入した船井総研 (DTEN)

船井総合研究所は、中堅・中小企業を対象に専門コンサルタントを擁する日本最大級の経営コンサルティング会社であり、全国の中堅・中小企業に対して多岐にわたるコンサルティングを提供している。なお、船井総研ホールディングスは、東京本社である「サステナグローススクエア TOKYO」の全会議室に、DTEN

製 AI 搭載ビデオ会議ソリューションを導入している。



DTEN 主要製品ポートフォリオ (DTEN)

DTEN 社は、2015 年設立。カリフォルニア州サンノゼに本社を置き、AI 搭載ビデオ会議ソリューションを提供するリーディングカンパニー。同社の製品は、直感的で高品質なビデオ会議体験を提供し、世界中の企業、公官庁、教育機関などで導入されている。日本カントリーマネージャーは、河野 万邦 氏。

■ヤマハ：Crestron 社と遠隔会議向け機器における技術連携を開始、複数のカメラとの連動で対面・遠隔ともに一体感のある会議体験を実現

(1月29日)

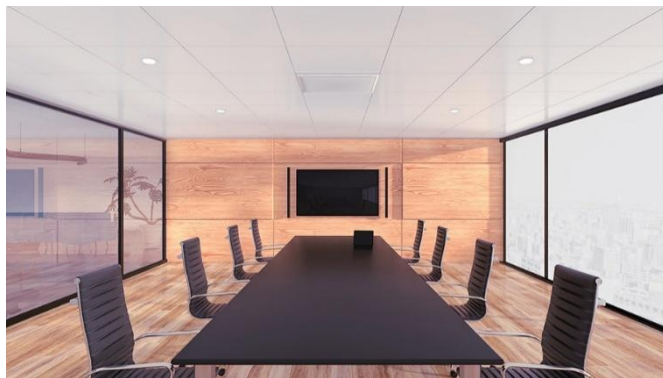
ヤマハ株式会社

(https://jp.yamaha.com/products/proaudio/unified_communications/index.html) (静岡県浜松市) は、同社のプロフェッショナルソリューション事業 (法人向け音響機器) において、Crestron Electronics, Inc. (<https://www.crestron.com/>) (米国・ニュージャージー州、以下、Crestron 社) との技術提携を行うと発表された。

今回の技術提携により、Crestron 社のインテリジェントカメラ「1 Beyond カメラ」、マルチカメラスピーカートラッキングソリューション「Automate VX」と、ヤマハの遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション「ADECIA シーリングソリューション」を組み合わせ、スマートな遠隔会議体験を提供する。

ヤマハの ADECIA シーリングソリューションを構成

する天井設置型のシーリングアレイマイクロホン「RM-CG」は、4本のマイクロフォンビーム (マイクフォンの指向性) で複数人の同時発話も逃すことなく追尾する「マルチビームトラッキング」を搭載している。室内の誰かが話すだけで、ビームが自動的に音源の方向を検知して追従し、離れた場所にいる参加者にもクリアで高品質な音声再生可能となっている。



ADECIA シーリングソリューション (ヤマハ)

「Automate VX」は音声起動型切り替え機能を採用し、話者のフレーミングやカメラソースの切り替えを自動的に行うことで、遠隔地の参加者がスクリーンに表示する内容を調整する。また、会場のいたるところに設置された複数の「1 Beyond カメラ」と連動し、高解像度に最大 20 倍までキャプチャーされた映像を映し出す。

会議室内の参加者は発言時にどこを見るか考える必要がなく、遠隔地の参加者は、常に部屋の全員を鮮明に見ることが可能となっている。その結果、アイコンタクト、ジェスチャー、リアクションなど非言語的な合図が常に見えることで、会議がより自然な共同作業として感じられるようになる。

ADECIA シーリングソリューションの持つ「マルチビームトラッキング」を 1 Beyond カメラとともに Automate VX と連動することで、マイクビームに合わせたカメラ制御を実現する。このソリューションは大会議室や多目的会場などの難しいスペースにも対応し、遠隔地にいる参加者にも、会議室内の参加者と同じ場所にいるかのように自然な音と映像を最適化する。

■メディアプラス：米 Caregility 社との国内販売代理店契約を締結

(PRTIMES:1月31日)

株式会社メディアプラス (<https://www.mediaplus.co.jp/>) (東京都千代田区) は、あらゆる場所で患者と医師/看護師をつなぐケアに特化したバーチャルナーシングのリーダーである Caregility 社 (米国・ニュージャージー州) と国内販売代理店契約を締結し、販売を開始した。

【Caregility(ケアジリティー)が提供する2つのサービス】



バーチャルナーシング(i Consult)



遠隔モニタリング(i Observer)

Caregility 社が提供する2つのサービス (メディアプラス)

Caregility 社は、大手 TV 会議システムインテグレーターとして 40 年に渡り企業や政府機関にサービスを提供してきた York Telecom Corporation(Yorktel)社のヘルスケア事業からスピンアウトする形でスタート。これまでの TV 会議システムインテグレーションの知見を活かした技術は、あらゆる種類のスマート医療機器を Caregility 社が提供する遠隔医療エンドポイントを通じて病室に統合することで、医療従事者の業務負担を軽減し、患者への最大限のケアを実現する、医療従事者の新しい働き方「バーチャルナーシング」を提供する。

Caregility 社が提供する2つのサービスは、「バーチャルナーシング (iConsult) と、遠隔モニタリング (iObserver) 。

iConsult は、専用のデバイスや PC、またはモバイル端末を使って、患者やベッドサイドの看護師が遠隔の医療従事者との間で双方向の音声およびビデオ通話を行うためのソフトウェア。ワンクリックで簡単に医療従事者との間でバーチャルケアを実現する。加えて、遠隔のベテラン看護師や専門医と相談し、現場のスタッフと共同作業を行うことができる。

iObserver は、1 人の看護師が同時に複数の患者をカバーできるようにする患者モニタリングソリューション。Caregility iObserver を使用すると、任意の遠隔地にいる最大 16 人の患者を 1 台のモニターで継続的に観察できる。ナイトビジョン付き高性能カメラを使用して、より精度の高い緻密な観察を実現する。

Caregility 社は、2019 年設立。急性期から外来まで、あらゆるデバイスと臨床ワークフローに対応するように設計された、安全で信頼性が高く、HIPAA に準拠した音声およびビデオ通信を提供する。現在、Caregility 社は、重篤な急性期医療から、緊急・救急医療、急性期後の外来医療、在宅医療まで、あらゆる場所で医療をつないでいる。

メディアプラスによると、Caregility 社の先進的なプラットフォームは医療現場のリソース不足により生じる問題や歪を解決する革新的なソリューションという。同社の持つ TV 会議専門知識と技術を応用し、日本の病院にバーチャルナーシングという新しい働き方を提唱する。

■ブイキューブ：世界最大規模の動画共有、編集、配信プラットフォーム Vimeo と日本における販売契約を締結

(1月31日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、Vimeo 社 (<https://vimeo.com/>) (米国・ニューヨーク州) と、日本における販売代理店契約を締結した。エンタープライズ領域におけるライブ配信やオンデマンド動画配信など、企業の動画コンテンツ活用の促進を加速させていく。



Vimeo 社とブイキューブ (ブイキューブ)

Vimeo 社は、2004 年からサービス開始。現在では世界で 2 億 8700 万のクリエイターや起業家などから利用されている動画プラットフォームを提供している。2024

年11月現在、1万社以上の企業がVimeoエンタープライズを採用している。

昨今、マーケティングコミュニケーションや、研修等の分野で、企業の動画活用がますます広がっている。このようなトレンドを背景に、さまざまな動画配信や管理プラットフォームサービスが市場にあるなかで、Vimeo社は特にプロフェッショナルな動画クリエイターや企業向けの高品質な動画配信サービスを提供しており、独自のポジションを確立しながら、成長を続けている。こうした状況の中、Vimeo社が日本市場への注力を強化する戦略と、ブイキューブがさまざまな動画サービスを取り扱う中で、Vimeo社の強みを活かし、特に企業内での動画活用を日本市場に広めるといった目的が一致したことから、本販売契約の締結に至る。

ブイキューブでは、さまざまな特長を持つコミュニケーションサービスの取り扱いを拡大し、コミュニケーションDXの実現を加速していくとしている。

導入利用動向-国内

■ Neatframe：東京と富山の3校を対象とした遠隔合同授業の取り組みで Neat デバイスが活用

(PRTIMES：2024年12月17日)

Neatframe株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都千代田区) は、このたび東京と富山の3校を対象とした遠隔合同授業の取り組みにおいて、同社のオンライン会議用デバイス「Neat Board Pro」と「Neat Frame」が活用されたと発表。

この取り組みは、地域間での情報教育格差解消を目的とし、国の「高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)」に採択された高校間で実施された。12月10日に行われた合同授業では、東京の聖徳学園中学・高校と富山県の高岡向陵高校がオンラインで接続された。授業では、聖徳学園中高の「データサイエンスコース」部長であるドウラゴ英理花氏が担当し、AIや統計学について富山の高校生たちに講義した。

遠隔合同授業の企画と運営には、日本スマートパブ

リック株式会社と社会構想大学院大学の荒木貴之教授が連携し、AI搭載の映像技術や高性能オーディオ、簡単操作が特長のNeatの先進的なデバイスがその中核を担った。

今回の取り組みは、Neatデバイスを用いた教育の新しい形を示した。これにより、教師と生徒間だけでなく、生徒同士が連携するグループワークやディスカッションの実施も可能となる未来が見据えられている。Neatframeは今後も先進的なテクノロジーを通じて教育分野の課題解決に貢献していくという。

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報(2月)

「SALES TRAIL「逆境」を乗り越えるセールス・イネーブルメント 第3回」「【東京開催】バーチャル株主総会・決算説明会 配信会場シミュレーション」「Legal Innovation Conference～2024年の株主総会の振り返りと2025年の運営に必要な準備～」など

会場：オンライン/オンデマンド/東京

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー(2月)

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cna.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNA.jpサイトの情報もご参照ください。

業界の動き

オンライン会議・UC業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回(プレスリリースと取材に基づく記事のみ)ですが、CNAレポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X（旧：Twitter）（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

お知らせ（重要）

—配信システムの変更について—

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を 2024 年 10 月末号にて終了いたしました。今後は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）、facebook ページ、dte-forum メーリングリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト

<https://cnar.jp>

>X(旧ツイッター)

<https://x.com/cnarjapan>

>facebook ページ

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

>メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

■CNAレポート・ジャパン 2025年1月31日号

ホームページ: <https://cnar.jp>

お問い合わせ: inquiry@cnar.jp